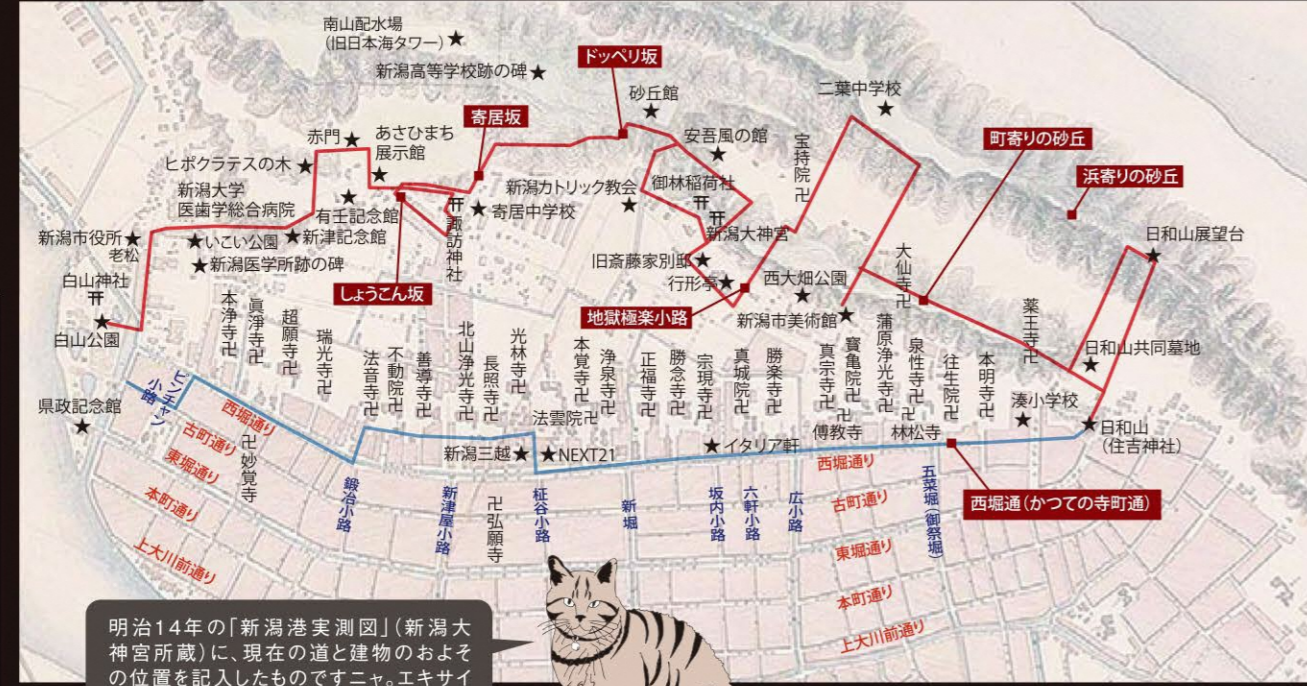


新潟の町 坂道めぐり

白山公園から新潟大学医歯学総合病院前の坂を上り、楠本県令が目指した「開化の町並」のあとをたどりませう。坂と町に色濃く残る、歴史や人々の記憶に出会うショートトリップです。



明治14年の「新潟港実測図」(新潟大神宮所蔵)に、現在の道と建物のおよその位置を記入したものです。エキサイティングな坂道へ、ささ、どうぞぞう。



老松さんにはかないませんが、新大の我々も案外古参なんですよ。ねー。

白山公園 市役所 老松

江戸時代の初め、白山神社境内から現在の学校町・白山浦周辺は**千本松原**と呼ばれたほどの松林でした。現在の新潟市役所本庁舎前の2本の老松は、**松原**名残のもの。明治時代に**物産陳列館**が建ち、昭和には**新潟県庁**、平成になって現在の市役所と建物は変わりましたが、松はずっと変わらず大切に保護されています。



新潟県庁時代の絵葉書。バスの奥に交番、右手に医科大学。★下は絵葉書と同じ位置から見た現在の新潟市役所と松

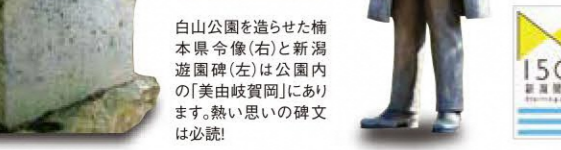
ワシは800年前から町を見てきたんじゃ〜。



白山公園にいるワシにも会いに来てくれ給えよ。そういふあなたは県令 楠本正隆さん。白山公園を造らせた楠本県令像(右)と新潟遊園地(左)は公園内の「美由岐賀園」にあります。熱い思いの碑文は必読!



2019年1月1日 新潟は開港150周年



坂の上の町 開化の取り組み

現在の新潟大学医歯学総合病院前から先の坂の上の町は、楠本県令の開化の取り組みの大きな舞台でした。明治6(1873)年、楠本県令の命により**新潟病院**が**外国人医師を迎えて開院**、併設の**医学校**は学生に西洋医学を教えました。同12(1879)年、医学校が**県立新潟医学校**になり、病院は医学校の附属施設になります。しかし県の財政難で21(1888)年3月に医学校が廃校になったため、4月に新潟区が区立病院を設立、翌年の市制施行時に**新潟市立新潟病院**となります。明治43(1910)年、**新潟医学専門学校**が**南山**(現在の旭町通1)に開校すると、市立病院は学校附属の**新潟医学専門学校付属病院**になります。大正11(1922)年医科大学に昇格し**官立新潟医科大学**として開校、現在の新潟大学医学部の前身となりました。

医学町通2(いこい公園隣)の新潟県医師会館の前にある「新潟醫學所跡」碑。



病院の入退院入り口前にはギリシャのコス島から来た「ヒポクラテスの木」。路面にもご注目!



しょうこん坂



明治8(1875)年、**医科大学**の隣(学校町通2・現新潟大学医歯学総合病院敷地)に、教員養成の**官立新潟師範学校**が完成しました。後、官立師範学校は廃止され、同19(1886)年に**新潟県尋常師範学校**が開校します。学校町通の校舎は明治23(1890)年に焼失し、26(1893)年に旭町通2(現あさひまち展示館の場所)に移転しますが、41(1908)年の大火でこれも全焼したため、43(1910)年に当時最先端の洋風建築で立て直されました。

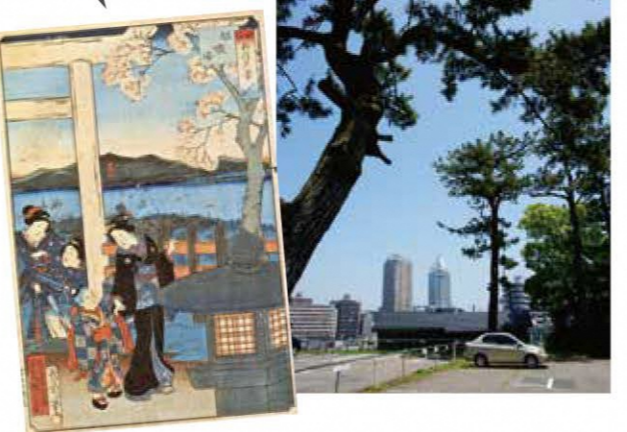


師範学校跡の碑(あさひまち展示館前)

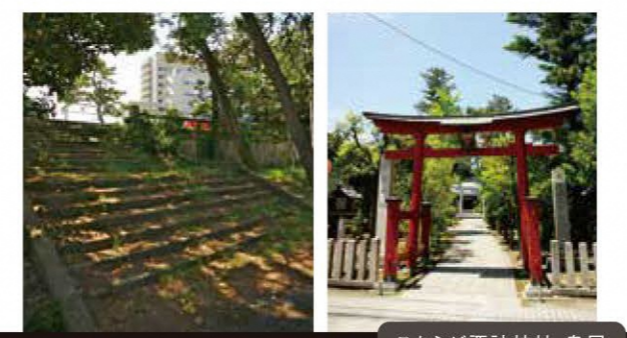
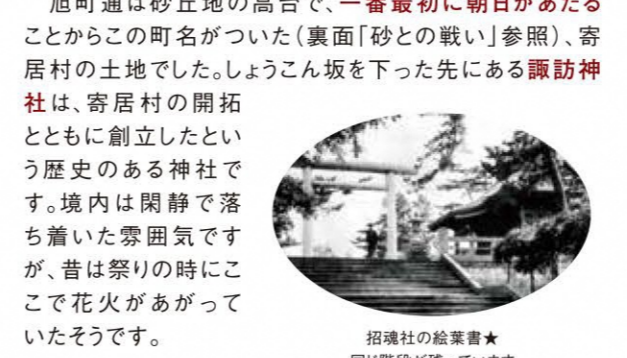


洋風建築の尋常師範学校★ 尋常師範学校跡の坂道

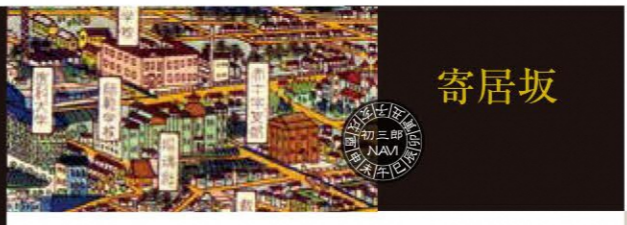
左は「越后新潟真景・招魂場」という錦絵。背景は当時の新潟町です。景色のよい名所だったんですね。現在は跡地からNEXT21が望めます。



明治元(1868)年、戊辰戦争の戦死者を祀る**新潟招魂社**が旭町通に造営され、多くの人が訪れました。しかし昭和20(1945)年、招魂社に変わる**新潟県護国神社**が西船見町に完成したため旭町の招魂社はなくなり、名前に由来を持つしょうこん坂だけが残されました。旭町通は砂丘地の高台で、一番最初に朝日があたることからこの町名がついた(裏面「砂との戦い」参照)。寄居村の土地でした。しょうこん坂を下った先にある**諏訪神社**は、寄居村の開拓とともに創立したという歴史のある神社です。境内は閑静で落ち着いた雰囲気ですが、昔は祭りの時にここで花火があがっていたそうです。



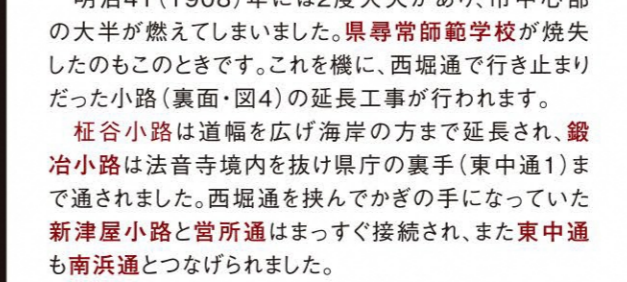
招魂社の絵葉書★ 同じ階段が残っています。絵葉書の階段がそのまま残っている招魂社跡地。シックでしょ。こちらが諏訪神社。鳥居の奥に私たちがいるわ。私たち、諏訪神社の四本松スターズです。左はしょうこん坂!



明治5(1872)年、政府直轄軍兵士が居住する**営所**が現在の寄居中学校周辺に設けられます。わずか2年後には廃止されてしまいましたが、**営所通**という名前は残りました。**営所通**は海岸方向へ向かって海岸砂丘を上るゆるやかな坂道で、**寄居坂**とも呼ばれています。



新潟町はたびたび大火に見舞われました。明治13(1880)年の大火では、旧奉行所(現在のNEXT21)の建物を利用していた**初代県庁**も焼失し、東中通1(「しょうこん坂」下付近)へ移転しました。ちなみに県庁は昭和7(1932)年に学校町通(現在の市役所)、60(1985)年に現在地の新光町へ移転します。明治41(1908)年には2度大火があり、市中心部の大半が燃えてしまいました。**県尋常師範学校**が焼失したのもこのときです。これを機に、西堀通で行き止まりだった小路(裏面・図4)の延長工事が行われます。**榎谷小路**は道幅を広げ海岸の方まで延長され、**鍛冶小路**は法音寺境内を抜け県庁の裏手(東中通1)まで通されました。西堀通を挟んでかぎの手になっていた**新津屋小路**と**営所通**はまっすぐ接続され、また**東中通**も**南浜通**とつながられました。



二代目新潟県庁(上★)と現在の東中通1周辺(下)

営所通からほど近いポケットパークに、医学に貢献した2人の先生の像があるポー。



新潟医学専門学校の創立と大学昇格に尽力した澤田敬義(けいぎ)像は営所通パークに(左)、不妊治療の研究で名高い荻野久作(きゅうさく)像はオギノ公園に建っています。2人とも明治から昭和にかけて新潟で活躍し、名譽市民となっています。

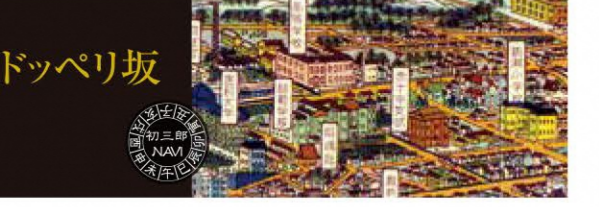


現在の寄居坂と寄居中学校。寄居坂から海に出る手前に、招魂社にかつてきた護国神社があるニャ。



現在のようす

大正8(1919)年、**新潟高等学校**(旧制新潟高等学校)が開校します。校舎は西大畑町にあり、後に新潟大学に継承されました(現在は新大附属小中学校敷地)。西大畑町の**ドッペリ坂**の上には「**六花寮**」という学生寮があり、坂の下の繁華街に通っていると落第するぞ! という意味で、ドイツ語のドッペルン(二重にする、落第の意)にかけたこの名がついたそうです。ちなみに坂の階段は59段。及第点に1つ足りないというオチつきです。



ドッペリ坂の下には池があり、**新潟カトリック教会**はその隣に建っていました。教会の現在の聖堂は昭和2(1927)年に献堂されたもので、池のほとりから教会を望む絵葉書が残されています。池は枯れてしまっただけではありません、**異人池**という名前は残され、聖堂も当時と変わらぬ佇まいで同じ場所にあります。



ドッペリ坂、階段数えてみますか?

ドッペリ坂、階段数えてみますか?